

1. 評価報告概要表

【評価実施概要】

事業所番号	2492100017
法人名	有限会社 坂倉
事業所名	グループホーム とういん
所在地 (電話番号)	員弁郡東員町鳥取1308-1 (電話) 0594-76-7118
評価機関名	三重県社会福祉協議会
所在地	津市桜橋2丁目131
訪問調査日	平成 20 年 8 月 4 日(月)

【情報提供票より】 (H20年7月16日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成 18 年 10 月 10 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	15 人	常勤 1人, 非常勤 14人, 常勤換算	3.1人

(2)建物概要

建物構造	木造 造り		
	2 階建ての	階 ~	2 階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	42,000 円	その他の経費(月額)	19,000 円	
敷金	有(円) <input type="radio"/> 無 <input checked="" type="radio"/>			
保証金の有無 (入居一時金含む)	<input checked="" type="radio"/> 有(50,000 円)	有りの場合 償却の有無	有 / <input checked="" type="radio"/> 無 <input type="radio"/>	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり 1,300円			

(4)利用者の概要(7 月 16 日現在)

利用者人数	6 名	男性	名	女性	6 名	
要介護1		名	要介護2		2 名	
要介護3		4 名	要介護4		名	
要介護5		名	要支援2		名	
年齢	平均	88 歳	最低	84 歳	最高	92 歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	いなべ総合病院 羽田歯科医院 宮口内科循環器科
---------	-------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

2年前に建てられた事業所は、木造2階建てで1階にショートステイ、2階をグループホームとしている。建屋内部はバリアフリー仕様となっており、高齢者、障害者にとっては生活のしやすい住居となっている。グループホーム内の雰囲気は少しでも家庭的に近づけたいため、職員はユニフォームではなく私服で、利用者と接している。また、グループホームの利用者が少ないため、交友の輪をひろげ楽しい時間をすごせるようにとの思いから、毎日午前中はショートステイを訪問し交流を楽しんでいる。夜間は、ショートステイ、グループホーム共に1名ずつの職員が配置され夜間緊急時の安心感を高めている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の、評価で出された課題は4件あり全職員で検討し、3件は改善され1件が検討中である。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	管理者は、外部評価受審計画書を作成し、それに基づいて自己評価検討会を複数回にわけ職員と話し合い、自己評価を作成している。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	現在は、運営推進会議を3ヶ月に一度開催し事業所の現状及び課題について説明し出席者の助言を聞き、サービスの質の向上に生かしているが、出来れば推進委員の協力をお願いして2ヶ月に一度開催し、事業所のサービス向上に取り組まれるよう期待したい。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族の訪問時には、積極的に声かけを行い相談、苦情等云いやすい雰囲気づくりに努めている。また、行政関係の窓口の電話番号も重要事項説明書に記載し家族の意見が出やすいようにしている。
重点項目⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	職員の企画による各種行事には、地域のボランティアに参加協力をお願いし来所してもらっている。また、地域の小学生もよく立ち寄ってくれ地域との交流は盛んに行われている。

2. 評価報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	理念「思いやりの心を大切にし、その人がその人らしく地域で生活することを支援します」を事業所独自の理念としている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は、玄関の見やすい位置に掲示している。また、毎日見る業務日誌にも記載し、管理者及び職員は、常に理念を共有し理念の実践に取り組んでいる。	○	現在事業所では、パンフレットの作り直しを検討しており、そのなかに理念も記載して地域等へ伝えるよう考えている。是非実施されるよう期待したい。
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	職員の企画で、各種行事を行っているがその中の催事にボランティアの参加を要請し地域の人々と交流を行っている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	運営者、管理者、職員は評価の意義を理解している。管理者は外部評価受審計画書を作成し、自己評価から改善にいたるまでを詳細に記録し実行へと結び付けサービスの質の向上に生かしている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、地域住民、行政関係者の協力を得て3ヶ月に一度開催されている。	○	現在は3ヶ月に一度の開催となっているが、出来れば関係者各位の協力を要請して2ヶ月に一度の運営推進会議を開催し、より多くの意見を得てサービスの向上に生かしていくことが望まれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	管理者は、行政窓口や地域関係機関を度々訪問し、サービスの向上に取り組んでいる。内容は地域連携ネットワーク簿に記載されている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月定期的に暮らしぶり等の報告をしている。預かり金についても定期的に報告し、確認のサインもされていた。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の訪問時には、積極的に声掛けを行い相談しやすい雰囲気づくりに努めている。行政関係の窓口も重要事項説明書に記載し繰り返し説明をしている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	事業所は、1ユニットであり異動もなく職員と利用者は馴染みの関係で支援を受けている。職員が退職して新しい職員が入った場合は利用者にきちんと紹介している。	○	利用者には、きちんと紹介はされているが家族には紹介はしていない。より良好な信頼関係を構築するためにも家族への報告をすることが望まれる。
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	運営者は管理者や職員の研修の必要性を理解しており、研修計画に基づいて受講するよう進めている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者を中心に地域事業者との連携をはかり、地域ネットワーク作り及び勉強会を活発に行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用前には、家族と利用者が事業所を訪問し他の利用者とのふれあいを通じて馴染んで利用できるようにしている。また、利用が始まってからも家族にしばらく一緒に居てもらい徐々に馴染めるよう取り組んでいる。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は、利用者に対して問いかけをして苦しかったこと、楽しかったことなどを話してもらっている。また、人生経験の長い利用者から、料理のこと、和裁のことなどを教わり、共に支えあう関係を築いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	アセスメントを見たり、利用者のその日の状況を見て、希望、意向の把握に努めている。意思の疎通が困難な利用者にはあせらずゆっくりと話しかけ、身振りを交え希望、意向の把握に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	家族や、関係職員が集まり担当者会議を開き、その中で希望や意見アイデアを出し合い、それを基に介護計画を作成している。会議要点は担当者会議要点としてまとめられている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	現在は、定期的には6ヶ月に一度の見直しを行っている。見直し以前に状態が急変した場合は、関係者と相談の上見直しが行われている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	家族の要請で、通院の支援や、帰宅等の送迎を支援している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医へは、職員が訪問して医療情報を得たり確認等を行い適切に対応できるように支援をしている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合や、終末期に向けた話し合いは行っているが、重度化した場合や終末期の利用者を支援することは現状では難しい。	○	将来的には、重度化した場合や、終末期に向けた対応も求められるのではないかと、家族、かかりつけ医及び関係者と話し合いを続け方針を共有することが期待される。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員と利用者の言葉のやり取りは、穏やかで、明るく感じられた。一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような対応はしていない。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的には、一日のスケジュールは決まっているものの、一人ひとりの状態に合わせて柔軟に対応し希望に沿った支援をしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は、出来るだけ自分の手で完食を目標に支援をしている。デザートのスイカを要らないと云われた利用者も、職員が「では細かく刻みましょうか」と云って刻んでもらったら完食された。後片付けも職員と一緒に楽しんでしていた。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は、2～3日に1回としているも時間、入浴方法等利用者の希望に沿って入浴が楽しめるように支援している。	○	入浴は、2～3日に1回としているが、出来れば利用者の希望にあわせて毎日でも入浴支援が出来るよう検討されるよう期待したい。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	ごみ集めや、洗面所の掃除を職員と一緒に楽しみながら行っている。また、午前中はショートステイを訪問して楽しいひと時を過ごしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	四季の移り変わりを、肌で感じてもらう様に利用者の体調に配慮しながらドライブ、お花見などを楽しんでいる。また、馴染みの喫茶店も訪問し楽しめるよう支援をしている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員の見守りを工夫して、出来るだけ日中は玄関の鍵をかけないようにしているが、当日利用されているショートステイの利用者の状態を見て鍵をかける場合もある。	○	利用者は、日中鍵をかけられることにより、閉塞感、心理的な不安を生じることもあり、デメリットな部分がある。安全を確保した上で鍵をかけないケアに取り組まれることが望まれる。
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の協力を得て避難訓練を行っている。2階利用者の一時避難場所の確認、消火器、緊急通報器の使用方法等の訓練を行った。近所にある24時間営業のコンビニにも緊急時の協力をお願いしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事は、栄養バランスを考えた食事を利用者に提供している。水分量の確保にも注意を払い摂取量を記録して確認をしている。時々栄養士に摂取カロリーを確認してもらっている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビング及び廊下には、利用者の作品が飾られていると共に季節が感じられる飾り付けも行われ、居心地よく過ごせるよう工夫をしている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	事業所は、利用者の家族に「家族の皆様へ」の書面を渡し利用者の愛着のある物、使い慣れたものの持込をお願いしている。筆筒、椅子等が持ち込まれ日々安心して過ごせるようにしている。		